

(要約版)

## 宮古島の飲酒法「オトーリ」に対する宮古島出身者が持つ意識

波名城 翔 (琉球大学人文社会学部)

### 1. 研究目的

本研究では宮古島の飲酒法「オトーリ」について、宮古島出身者の意識を明らかにするために、宮古島の酒の歴史及びオトーリ文化の歴史的背景を明らかにするとともに、宮古島出身者（島内、島外在住者）を対象にインタビュー、アンケート調査を行い「オトーリ」の機能と在り方について示唆を得ることを目的とした。

#### 1-1 語の定義

宮古諸島の総称を「宮古島」と表記する。また、県外については「本土」と表記する。

### 2. 研究 1

#### 2-1. 研究方法

宮古島の酒の歴史及びオトーリ文化の歴史的背景を探ることを目的とした。宮古島の酒の歴史については先行研究等から調査を行った。復帰前後以降については、新聞記事や宮古島出身者に行ったインタビューも含めた。

#### 2-1. 研究成果

##### ①酒の歴史及びオトーリ文化の歴史的背景

1477年頃の宮古島は口嚙み酒が一般的であった。1768年頃には焼酎が造られ祝いや祈願行事等に用いられていたが、1857年以降琉球王府からの規模帳の規制により焼酎が禁止されていった。1879年の琉球王府の解体に伴い、民間でも酒造りが可能になったことから宮古島でも泡盛が造られるようになった。

沖縄戦後はニミツツ布告によって軍政府に規制されたことで、密造が盛んに行われ、ザラメやサツマイモなど貴重な食料を原料にした。軍隊用のメチル・アルコールを飲んで眼病に侵される者も出たほどであった。

沖縄復帰後は景気の上昇と泡盛ブームによってオトーリブームが始まった。新聞上では1975年以降オトーリによる多量飲酒が問題として取り上げられる一方で、観光資源としてのオトーリの活用が見られるようになった。2020年の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の発生により、オトーリは感染リスクが高いとされ、県からオトーリ注意報が発令、以後オトーリは減少していった。

##### ②宮古島におけるオトーリの起源

さまざまな説があり琉球王国時代の「御通り」、1368年頃の神事説「ウートゥイ」が起源として考えられるが、確定できる根拠資料が乏しく明らかにすることができなかった。

## 3.研究 2

### 3-1.研究の目的と方法

宮古島出身者のオトーリをどのようなときに用いたかを把握するために関東、関西、九州、沖縄本島、宮古島在住者計 62 名に個人またはグループインタビューを行った。

### 3-2.研究成果

60 代以上の年代では、本土及び沖縄本島での生活で差別や偏見を受けており、宮古島出身者で集まってオトーリをしていたが、50 代以下の年代ではオトーリは宮古島出身者同士の連帯感を高めるとともに宮古島出身者以外とネットワークの構築を図るためのツールとなっていた。

## 4.研究 3

### 4-1 研究の目的と方法

宮古島出身者のオトーリの意識について明らかにするために「オトーリに関する意識調査」を実施した。回答期限は 2022 年 12 月 7 日から 2023 年 2 月 15 日までとし、ウェブ及び紙媒体で行った。分析について単純項目は SPSS による集計、記述は計量テキスト分析を行った。

### 4-2 研究成果

回答者は 327 人であった。居住地別では「宮古島」が最も多く 172 人、次いで「沖縄本島」が 80 人、「関東」が 43 人と続き、宮古島在住者と宮古島外在住者の割合は 53% と 47%であった。年代では 40 代が最も多く 120 人 (37%)、次いで 30 代で 92 人 (28%) と続いた。オトーリ経験「有」は 315 人で 20 代での経験者が多かった。

コロナ以前は 252 人 (77.1%) がオトーリをしていた。理由として「宮古島出身者が集まったら自然とオトーリをする」のカテゴリのコード数が最も多かった。コロナ禍では「コロナ感染予防」を背景に 47 人 (14.5%) まで減少していた。コロナ禍後のオトーリは「オトーリのスタイルを変えた」が最も多かった。

オトーリの良いところは「初対面でも話して仲良くなれる」、「人前で挨拶する経験がつく」、悪いところでは「強制的に飲まされる」、「酒に弱い人は辛い」などがカテゴリされた。また、宮古島出身者にとってオトーリの意味として「宮古島の風習」のカテゴリが最も多かった。

## 5.結論

本研究の結果から①泡盛の歴史的背景からオトーリの方法が変化してきたこと、②沖縄県（または宮古島）のイメージとともに宮古島出身者がオトーリを用いる目的が

変化していること、③オトーリの機能として宮古島出身者同士の結束、宮古島出身者以外との繋がり、対人関係を高める機能があることが考えられた。一方で多量飲酒によって社会問題を引き起こす可能性があるため、オトーリの在り方として飲酒量を減らす仕組みの構築が必要である。

また、オトーリの機能は若年層への自殺予防対策としても効果的であると考えられることから、飲酒ではない方法で再考することで今後離島における自殺予防としての活用も期待できる。